



阿  
安  
永  
實  
錄



十三

~ 13  
3362  
13



13  
3362  
13

二十五  
佐吉  
本印



家永実録傳卷之十三

目錄

- 一 指回及佐友米るといふ連中書成の事
- 一 指回及田中定之助所敷の事
- 一 英回中定之助所敷の事
- 一 英回中定之助所敷の事



大正十一年八月廿九日  
本大學出版部

後尾子六

肥後行月三箇日

阿家永実録傳卷之十二

稲田殿作友求とよとも連中書殿ついでの文

并稲田殿とよとも宮みやの御ご入いり敷しきの事

池いけ子このこのこ稲田いなのの御ご入いり敷しきの事

鳥とりのの御ご入いり敷しきの事

新あらたのの御ご入いり敷しきの事

すすのの御ご入いり敷しきの事

よよのの御ご入いり敷しきの事

破御やぶご入いり敷しき

米高小登後氏いひつゝの女命  
家々田中一定を以て成る  
世之吹風とく一とく謙事と云  
乃免許友来るはあまを中  
定ま前より侍りし人たはせ  
謙よのつ貴 稲田の徳重と云  
豊平三月初日侍友来ると云  
し〜加藤家名と云と 稲田

是と云連徳徳一宅謙〜と云  
上り田中定ま前より家々世  
侍り米謙よの家のいふや遊  
世方〜遊〜中〜考訂も貞  
とのいふ伊礼のゐる素因及侍  
と彼名遊氏伊礼と云と女命  
治服と云〜遊〜有〜と云  
定ま前より女命氣と遊〜世方



くちあはれんを離れしはゆれはる  
ふや進く世方ふ甘うれのる中世  
いそせなるこもゆのるはる  
ゆ唯をこころ素因に海を枝  
新しるあよる人涙と流し  
あつるこころはるあみあ  
ゆれまのみろびそ方龍宿と  
新代のお智もみ城とあはる

い海をぬるわが併しとて佛  
海のりもや初らるもふかすや  
ろろ程く世く又母の苦抱と意  
つあつていそすこころ人そと涙  
の空をこりいそいとあめあ  
ろろああおと似せぬと誰か  
るあもろろ左仲と伴定るあ  
あひし海よこすもあはる



徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく

徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく  
徳清の故人もいふに  
あかきと徳施とく









交とけくはるる合秘術  
下銭いふはれも子孫おとす  
又子孫に付るる御事よ建  
交とけくはるる合秘術  
とれぬが九十九銭先極音場乃  
果しつるる九十九銭先極音場乃  
りし宗匠有れ宗匠と成りては  
子之のふみくる有根とみる定

透るるるる九十九銭先極音場乃  
石穿の心とありけり極音場の  
指負いふるる九十九銭先極音場の  
子孫の九十九銭先極音場の  
定るるるる九十九銭先極音場の  
とれぬが九十九銭先極音場乃  
宗匠有れ宗匠と成りては  
と称するる九十九銭先極音場の

うねいそ晴く定ま前そ  
めくふ山時歌よお今并討換  
年ひそふす  
かしもういそ縁の由さう歌  
後友大不素つを家あるも  
くわん成建すく併素  
くあふよ歌大不素つ  
ふそひそ  
紫人おけふ作縁

玉角條のうくく  
や時降ふらうく  
取もさうきひ是好の  
くくく  
書子と東名と何  
圓の内くも漢  
くくく  
くくく  
くくく



空の如く〜  
増えや世の如く  
〜女〜遠く〜  
背の如く〜  
胸の如く〜  
も思味の如く〜  
〜増え〜  
女の如く〜

弱の如く〜  
〜増え〜  
〜女〜  
〜増え〜  
〜女〜  
〜増え〜  
〜女〜  
〜増え〜  
〜女〜







うきひ流るも海程の重なる  
如く草をくわきまきし眼とて  
安らみみみ語をるる程とて  
家探る程の田中定み命程  
のまき神とて流石の福田もまの  
毛流る斗り天晴ぬ定みわ我  
其まきとてらるる程とて草と  
眼有る今眼あるらるる程とて

六未

行時もまき程の用をくわ  
如く草をくわきまきし眼とて  
又出が新あり計原とて草と  
くわきまきし眼とて  
定みみみ語をるる程とて

田中定み命程の用をくわ  
如く草をくわきまきし眼とて  
定みみみ語をるる程とて  
如く草をくわきまきし眼とて

六未



もいふ事よ有れと 左子跡の体  
しるしとくくくも 歌をよめりて 左の  
伴定よりとくあふも 知るる  
形相之流よ 稲田の 智恵をくはて  
しるしとくくく 海より 稲田の  
海に仙居とくく 海方の 有れとく  
宮より 何れとくく 百一宮  
途中の 福氣を 変もりて ありとく

一六

来事集より 一り 又 歌よ 歌  
有れとくく 一り 又 歌よ 歌  
宮より 何れとくく 百一宮  
海より 稲田の 智恵をくはて  
しるしとくく 海より 稲田の  
海に仙居とくく 海方の 有れとく  
宮より 何れとくく 百一宮  
途中の 福氣を 変もりて ありとく

道神志見傳

一六





